

“NUFS Next”

(点検・評価)

Global Future Project 2018 at NUFS

■名古屋外国語大学は
創立 30 周年にあたる 2018 年に向けて
以下に示す人材育成のヴィジョンのもとに
高等教育の4つの領域における改革を含む《GFP2018》を策定し
アクションプランを実行します■

“外国語運用能力に優れ
世界に通用する教養を備え
共感力溢れる
グローバル職業人を育てる”

名古屋外国語大学
Nagoya University of Foreign Studies

評価については、本学のGPA基準を参照した。

I. 日本の中部地区をリードする高等教育拠点としての体制の確立

(1) 学士力の強化に向けた外国語教育のさらなる高度化

- ・少人数教育（「パワーアップ・チュートリアル」等）の充実と質の保証

全学部・全学科において英語によるPUTを実施するなど徹底した少人数教育が実現されている。中国語学科における能力別クラスの編成など、状況に見合った対応がなされており、十分な成果を見ることができる。評価3

- ・英、仏、中、露、日などの言語の教育について、NUFS 外国語教育メソッドの追求

Coa English チームによる4技能育成のための共通教材作成、英語、フランス語教材の作成、出版会からの語彙集の出版などによって本学の外国語教育にカスタマイズしたメソッドが探求されており、十分な成果を見ることができる。評価3

- ・本学独自の英語能力テスト（Test of English for NUFS）の開発と研究

英語リーディングチームによるJACET800に基づく語彙テストが開発され、一定の成果を見ることができる。評価2

- ・上記英語能力テストの成果に基づく学生用学習カルテの作成

未着手（計画段階）

- ・CBT（Computer 利用教育）やWBT（web 利用教育）等の概念を包摂したe-ラーニングの支援

英語教育におけるCALL科目の設定、 Moodle の積極活用、中国語におけるE-ラーニング型授業の実施、さらにはLC科目の充実化等によって十分な成果を上げている。評価3

- ・TOEIC®, TOEFL®, IELTS®など、各種検定試験における平均目標値の設定

グロービジ、英語教育等、TOEIC, TOEFL の目標値を掲げる学科があるが、全学的視点においてはまだ不十分と判断される。評価2

- ・十分な学習時間を確保するための柔軟かつ創造的な学事暦の創出

未着手（断念）

(2) 「共感力」溢れるグローバル職業人育成のための教養教育の充実と学術性の追求

- ・世界教養プログラムの全学導入

2017年に全学導入が決定され、卓越すべき水準にある。評価4

- ・バランスのとれたカリキュラム構築のための社会科学系カリキュラムの充実

世界共生学部の設置に伴い、社会科学系のカリキュラムが飛躍的に充実し、世界教養プログラムにおいても社会科学系の授業科目が年次進行で開講され、一定の成果を見ることができる。評価2

- ・アカデミック・アドバイザー制度の導入

世界教養学科においてアカデミック・アドバイザー制度が導入され、また、他学科では全学的にクラスアドバイザー制度がその役割を一部代替しており、一定の評価を見ることができる。評価2

- ・多言語多文化教育の積極的な推進

世界共生学部の開設及びグローバル共生社会研究所の設置、また愛知県との多文化共生に関する協定を締結するなど、十分な成果を見ている。評価3

- ・グローバル人材育成のための教育カリキュラム改革に適合した外国人教員の積極的な採用

全学的に外国人教員の占める比率が**パーセントであり、とくにフランス語学科の専任ポストのうち4名がフランス語を母語とする外国人教員あること、中国語学科では、非常勤教員の80%を外国人教員が占めるなど、卓越した水準にある。評価4

(3) キャリア意識の啓発とキャリア教育のさらなる充実

- ・キャリアサポート・ポリシーの確立

国際教養学科、グロービジでは、キャリアサポートに強い教員を配置しており、部分的に大きな成果を上げている。CSセンターとの協働も十分に機能しているが、ポリシーの形ではまだ実現していない。

評価2

- ・職業意識啓発のためのキャリア科目の必修化

国際教養において、一年次必修科目内で企業研究を導入しているが、全学的レベルでの達成は計画段階にある。評価1

- ・エアライン、マスコミ関連など専門的職業への就職支援

主として国際教養を中心に、専門職を経験した教員を採用し、全学的な貢献を行っている。JALとの協働によるタイ空港でのインターンシップ実現も、全国的に見ても卓説した水準にある。評価4

- ・外務省専門調査員等国際職業人育成のための支援拡充の検討

未着手（計画段階）

- ・国内外インターンシップの機会拡充

グロービジ企画による海外インターンシッププログラム（カナダビジネス研修）、中国語における北京外国語大学等との連携、英語教育でのオーストラリア研修等、各学科ともに活発にインターンシップの機会を実現している。また、グローバルジャパンプログラムにおいてIJ共同によるデンソー、西川流での研修が注目に値する。評価3

- ・名古屋学芸大学との連携によるサービ斯拉ーニングの導入検討

未着手（断念）

(4) 次世代「グローバル人材」育成のための学部再編と効率的かつ高度なカリキュラムの構築

- ・20年後の将来を見据えた全学的なカリキュラム改革とそれに伴う学部・学科の再編

世界共生学部、世界教養学部（うち国際日本学科の設置）、また、教育改革推進室を中心とした全学

的観点からのカリキュラム改編、英語教育学科の英語教育専攻への再編等めざましい段階にある。評価
4

- ・世界教養学科の学部化検討

世界教養学科と日本語学科が外国語学部から独立し、世界教養学部として再編された。評価 4

- ・英語を教育言語とする専門教育科目の一層の拡大

各学科ともに英語を教育言語とする専門教育科目の充実に努力している。英語教育、現代英語 (Lecture in English) グロビジが相対的に成果を上げているが、全学的レベルでは不十分である。なお、I J L E のジャパンスタディーズ、グローバルジャパンスタディーズにおいて充実化が図られているが、まだ不十分である。評価 2

- ・授業科目のレベルを示すナンバリング制度の導入

2017 年度より、外国語学部、現代国際学部、世界共生学部にて実施した。評価 4

- ・ルーブリックを活用した評価の標準化

C A S P 等において部分的に導入が図られているが、まだ不十分である。評価 1

- ・海外協定大学の学位も保持するダブルディグリー制度の拡充

未着手

- ・日本語教育及び TESOL を中心とする国際連携学科設置に向けての検討開始

未着手 (中止)

- ・本学 (世界教養+英語) と名古屋学芸大学間の共同学科設置に向けての検討開始

未着手 (中止)

- ・名古屋学芸大学との教職課程単位互換制度、小学校教諭養成課程の共通化推進

構想段階

- ・名古屋学芸大学との共通教職センターの設置

構想段階

- ・英語を教育言語とした「スーパー・アドヴァンスト・コース」の設置

未着手

(5) 将来性ある学生を獲得するための入試制度改革

- ・特別選抜入試の改善

特別選抜試験において「世界人材育成型」(世界教養、世界共生)「日本発信志向」(日本語)「英語等有資格型」(全学)、あるいは商業高校の受験生を対象にした選抜(グロービジ)を実施し、卓越した水準にある。評価 4

- ・中部・東海地方以外からの受験生のさらなる確保

入試制度とは直接的な結びつきを持たないが、各学科ともにHP等の大幅なリニューアルに努めるとともに、中国語スピーチコンテスト(中国語学科)では、「高校の部」を設置するなどの努力が見

られた。また、2019年の創立30周年記念イベント「WEF30」では、愛知近県の高校生の参加を実現し、卓越した水準にある。評価4

- ・指定校制度の見直し

高校ランクによる推薦基準の見直しを行い、同時にまた、過去何年か推薦実績のない高校の指定校資格を再考し、一定の成果を上げている。評価2

- ・学部一括入試の検討

未着手

(6) 高度職業人養成を主眼とした大学院教育課程の改編と充実

- ・専攻の見直しとカリキュラムの改編

グローバル共生コースの設置とその見直しを中心として、IRに基づく再編の準備作業に入ったが、まだ十分ではない。評価1

- ・学部大学院5年一貫制度の導入による高度職業人と研究者の育成

2017年度より、五年一貫プログラムの全学導入を実施している。評価4

- ・グローバル共生の理念に基づく教員、高度職業人の育成

グローバル共生コースの設置を行った。評価4

- ・地域社会に貢献する公益通訳翻訳者の育成

大学院およびWLA C主催による医療通訳に関するシンポジウムを開催したが、まだ、不十分である。

評価1

- ・英語教育の実践研究ができる英語科教員の育成

大学院に設置されているTESOLコースにおいて目標を達成した。評価4

- ・日本の外国語教育・異文化教育を担う研究者・教育者の育成

本学の外国語担当専任講師を博士後期課程の院生として指導することでその端緒についた。評価2

- ・世界の日本語教育・日本研究を担う研究者・教育者の育成

中国の主要な大学の大学院学生をダブルディグリー生として育成している。評価2

- ・社会人大学院生を支援する体制の整備

土曜日開講のTESOLコースにおいてこれを実現した。評価4

- ・海外の大学院との連携によるダブルディグリー制度の推進

天津外国語大学大学院、大連大学大学院とダブルディグリーの協定を締結し、それぞれ、博士前期課程に大学院生を受け入れている。評価3

- ・連携協定に基づく大学院レベルの海外日本語教育人材の育成

同上 評価3

- ・受入留学生対象TESOLプログラムの創設

未着手（構想中）

(7) 教員の教育力の向上と研究環境の整備

- ・教員の自己研修を支えるFD活動の活性化

FDウィークを設定し、年2回のFD研修を行うことを制度化するとともに、大学院、学部ともに定例のFD委員会を開催し、教員の教育力向上を実現している。また、授業改善に関するアンケートを行い、その分析結果を報告し、担当教員からコメントを回収した。個別の取り組みとしては、英語教育の「これからの英語教育」があり、十分な成果を上げている。評価3

- ・学生の授業評価を踏まえた自己評価活動の推進

授業改善に関するアンケートを行い、その分析結果を報告し、担当教員からコメントを回収し、一定の成果を上げている。評価2

- ・大学間教員交換制度の構築

未着手

- ・国際コミュニケーション研究所の事業推進及び国際研究集会の積極的開催

国際コミュニケーション研究所に代わって設置されたワールドリベラルアーツセンター（WLAC）さらには個別の科研費による大規模な国際研究集会（「ゼロ年代のドストエフスキー」「表象文化としてのドストエフスキー」「ポーランドと日本における第二次世界大戦の記憶 ホロコーストと原爆を起点とする比較的アプローチ」「その先のAI」等）が、東京（東京大学）と名古屋（名古屋外国語大学）の二会場を中心に開かれた。前者の事業に関しては、日本ドストエフスキー協会（DSJ）が共催の形で事業実現に助力するなど卓越した成果を上げている。評価4

- ・ワールドリベラルアーツセンターの設立

2015年4月に設立された。評価4

- ・教員の英語教授力の向上を目的とした短期研修制度（2月～3月、8月～9月）の導入

未着手（構想中）

- ・名古屋外国語大学出版会（NUFS Press）の創設の検討

201+年に創設された。評価4

- ・「ベストティーチャー制度」の創設の検討

未着手

Ⅱ. キャンパスグローバル化及び豊かなキャンパスライフのための環境整備

(1) 留学（送り出し・受け入れ）制度の拡充と多様化

- ・ 留学費用全額支援留学制度（Total Expense Support System）の拡充

従来の留学費用全額支援制度を発展させ、二か国留学を制度化するとともに、TESSIV（航空サービス）を加えるなど多様なニーズに対応する仕組みを構築した。評価3

- ・ 2か国留学制度の導入とその多様化

TESSIII（二か国留学）を導入するとともに、非英語圏のみならず広くヨーロッパ圏に交流校を拡大した。評価3

- ・ 海外研修制度の見直し、及び、英仏中国語圏以外の言語圏への短期留学制度導入の検討

現代国際学部がイタリアで地域研究・国際研修プログラムを実施し、また、世界共生学部ではベトナムでの地域創生プログラムを実施した。評価2

- ・ 超短期海外派遣プログラム（One Young World、日露青年交流等）の拡充と多様化

One Young World、及び、「日中大学生討論会」「日中大学生訪中団代表派遣」「ロシア語短期留学プログラム」「ロシアミッション」等中国とロシアを対象地域とする代表者派遣プログラムを実施した。

評価3

- ・ 海外からの留学生の受け入れ拡大とそのための環境整備

留学生200人受け入れ計画を実施し、国際寮「グローバルビレッジ」を建設した。評価4

- ・ インターナショナルハウス（国際交流寮等）拡充による収容人員拡大

「インターナショナルレジデンス」「グローバルビレッジ」の二棟が新たにオープンした。評価4

- ・ 海外インターンシップの機会拡充

従来のUCR特別プログラムをメインとして、学部・学科が実施する中期留学における全プログラムにてインターンシップが導入され、エアライン業務に関する海外実地実習が実現した。特筆されるのは、JALとの協定によるタイ空港インターンシップ、グロービジによる海外インターンシップなどである。評価3

- ・ 外国人留学生、外国人学生に対する就職支援

留学生向けのインターンシップ事業として、デンソー、アイシン・エイ・ダブリュ、西川流との間でそれぞれ協定を結び、就職支援の一環としている。評価2

(2) キャンパスライフの充実化と学生の自主性・積極性を涵養する企画の創出

- ・ 課外活動に従事できる十分なスペースの確保（大学会館設置等の検討）

旧ブルドッグを回収し、学生会館として使用開始したが、全体として満足すべき水準にはない。評価

1

- ・ 3 (2) 大学共通ホールの整備

5号館511教室の全面リニューアルと図書館多目的室の環境整備が行われた。評価3

- ・ 大学祭、講演会等の学内行事の促進

例年の合同祭のほかに、各学科及びWLAC主催による講演会、シンポジウム、ゼミナール等を開催した。フランス語学科は、フランス語劇大会、フランス語弁論大会を実施した。大学創立30周年にあたる2018年度は、合計で30近い企画が催され、また30周年式歌を制作するとともに、これをCD化した。大学連携事業の一環として、2017年秋より、愛知県立芸術大学の学生によるランチタイムコンサートの企画がスタートした。評価3

- ・ 課外活動支援（名古屋外国語大学管弦楽団の設立他）

2016年10月に名古屋外国語大学フィルハーモニー管弦楽団が設立された。評価4

- ・ 主に国内を中心としたボランティア活動の支援

国際教養学科における瀬戸市での外国人児童学習支援プログラム、学生会による「太陽の杜（長久手市）でのボランティア活動、日本学科学生による日本語教室の開催、東北支援を目的とする英語教育学科の事業、及び自転車一人旅企画の応援、中日青葉学園などでも小学生等の英語教育に関わる留学生を支えるボランティア活動が上げられる。評価3

- ・ 7外大連合主催英語弁論コンクール等の開催の検討

未着手（構想中）

- ・ IJ (International and Japanese Students) 交流事業の拡大

留学ネットワーク、異文化交流、クリスマス、ハロウィン等のパーティが開催された。授業の一環としてグローバルジャパンプログラムが企画され、十分な成果を上げている。評価3

- ・ 各国別イベントの実施（アメリカ月間等）

個別イベント（フランス月間、ロシア月間、スペイン月間）が開始された。また図書館及びMLCにて国別関連資料の展示等が実施され、十分な成果を上げている。評価3

- ・ 地域住民と留学生の交流機会の拡大

日進市民と留学生交流イベント、国際交流イブが開催された。評価3

- ・ ランゲージラウンジの積極利用促進

各国からの訪問者の歓迎会、留学生との交流イベント、英語、フランス語、中国語による多言語でのランゲージラウンジの開催などに利用している。評価2

- ・ NUFS (名古屋外国語大学) / NUAS (名古屋学芸大学) FM放送局開局の検討

コミュニケーションプラザにおけるマスコミ研究会によるマスマスの開催として一部実現したが、十分とはいえない。評価1

- ・ 学生満足度アンケートの実施

卒業時に学生満足度調査を実施し、その結果分析を行った。ほかに、留学生アンケート、学生意見箱

を設置することで、学生の満足度を確認しており、世界大学ランキング日本版でのランクアップにも貢献しており、卓越した成果を上げている。評価4

- ・中途退学防止策の検討

クラスアドバイザー制度の積極活用による個別台頭、成績不振学生の保護者に対する連絡などによって対応しており、一定の成果を上げている。評価2

(3) 中央図書館及び種々の学術情報基盤の機能強化と有効活用

- ・図書館開館時間の見直しと教育・研究活動に対するサービス向上

学生及び大学院生の図書退出冊数の変更および、リーディングラウンジの整備等により、機能強化と有効活用を行っており、一定の成果が上がっている。評価2

- ・図書館の学習支援機能の充実

機関リポジトリの環境整備を行い、多読用リーダー、異文化理解のための入門書などの電子書籍を導入しているが十分とはいえない。評価1

- ・図書館の展示の充実と5階多目的室等の有効活用

各学科の個別行事、複言語コーナー (Plus X)、その他、W L A C とのコラボレーションによる各種展示企画、講演会、日本ドストエフスキー協会のセミナーを開催し有効活用しており、十分な成果が上がっている。評価3

- ・キャンパス内 ICT 環境のさらなる充実

新しい認証システム、全学のパスワード統一化、Edurom の導入を実現するとともに、タブレット P C 3 0 台を購入し、学生の利便性の向上に寄与しており、十分な成果を見ている。評価3

(4) 安全・安心な学生生活・留學生活のための基盤整備

- ・セキュリティの体制構築とセミナー開催

未着手

Ⅲ. 国内外の大学・種々の機関との連携及び地域社会への貢献

(1) 大学間連携の推進

- ・大学連携センターの創設

未着手

- ・国際交流協定大学の拡充（74 大学→100 大学）

国際交流協定大学は、2018 年 1 月時点で 134 大学に達し、目標を大きく上回っている。評価 4

- ・名古屋学芸大学との連携推進

世界教養プログラム等での講師派遣、W L A C 主催のイベントによる協働、合同祭、両大学の学生による積極的な課外活動等に一定の実績が見られる。評価 3

- ・「7 外大連合」をコアにした大学間連携による教育研究の充実

全国 7 大学学長会議の開催を中心に、懸案事項への対処法策、情報交換、その他議論し、外国語大学としての教育・研究のあり方について検討している。また、神田外国語大学のイニシアチブによる「通訳ボランティア育成セミナー」には毎回 30 名程度の学生が参加しており、一定の成果が見られる。評価 3

- ・東海地区国立大学との連携推進

未着手

- ・東京外国語大学との「教養教育の共同実施」と国内留学制度の整備

国内留学制度を用いて留学生を送り出しており、一定の実績が見られる（2015 年度 3 名、2016 年度 2 名、2017 年度 2 名、2018 年度 3 名）。なお、教養教育の共同実施は未着手である。評価 3

- ・京都外国語大学等との個別交流協定の締結

未着手

- ・海外連携大学との TESOL プログラムの構築

ウェスタンワシントン大学、ハワイパシフィック大学との TESOL プログラムに関する連携を推進し、学部では、ウィンチェスター大学との協定によって同プログラムに関連する学生を受け入れている。

評価 2

- ・英語圏の大学（ウィンチェスター大学等）との国際共同教育のさらなる充実

ウィンチェスター大学からの TESOL プログラム生受け入れと実習を含めた英語教育が実施されており、十分な成果が見られる。評価 3

(2) 日進・長久手市内所在大学による連携体制の構築

- ・日進市及び長久手市に所在する大学との連携体制構築の検討

5 大学共同図書環（名古屋外国語大学、愛知県立大学、愛知淑徳大学、名古屋学芸大学）事業および、日進市・名古屋外国語大学連携講座への学科教員派遣等、一定の成果が見られる。評価 2

(3) 高大連携の積極推進

- ・英語教育、多言語教育、多文化共生を重視する高等学校との連携推進

岐阜県立大垣北高等学校、私立東海学園高等学校との間に連携事業を行っており、また、英米語学科を中心にシンポジウム「これからの英語教育」を開くなど十分な成果が見られる。評価3

- ・国際系高等学校との連携模索

(4) 世界の「外国語大学」との連携強化

- ・日、中、仏、韓、露他言語圏の外国語大学間の国際共同教育（留学、単位互換）の推進

未着手

(5) アラムナイ事業の展開とステークホルダー等との連携強化による地域貢献

- ・同窓会との連携強化

外国語学部、現代国際学部同窓会連合会が発足し、統一同窓会に向けての議論が始まっており、一定の成果を見ている。評価2

- ・学生後援会との連携強化

学生後援会との連携によって、学生の課外活動、留学支援、謝恩パーティの開催が円滑に実施されており、十分な成果を上げている。評価3

- ・「NUFS Excellent Supporters」（仮称）の構築

未着手

- ・「NUFS Open Academy（オープンアカデミー）」の設立と地域貢献

組織体そのものとしては、未着手だが、実質的には、W L A Cがそれを代行する形で実現しており、またそれらの事業の地域貢献は、卓越したレベルに達している。評価4

(6) 英語教育及び多言語・多文化教育研究の成果の可視化とそれに基づく社会貢献・地域連携

- ・英語教育及び多言語・多文化に関わる研究教育の成果の地域社会への還元

国際教養学科において、瀬戸市に対して多文化共生に関わる提言を行っている。評価1

- ・中等教育に携わる英語教員の再教育による地域貢献

TESOL コースの推進、現職英語教員を対象とする英語教育セミナーを開催しており、十分な成果を上げている。評価3

- ・初等英語・児童英語の教育プログラム研究・開発による地域貢献（日進市・長久手市との提携模索）

日進市図書館と連携し、英語の絵本読み聞かせ等の企画を実現しており、一定の成果を得ている。評価2

評価2

- ・英語、中国語及びポルトガル語等の公益通訳者（司法、医療等）の育成による地域貢献

未着手

- ・医療、司法に関わる英語及び中国語の教育法メソッド確立

中国語学科を中心に、医療通訳入門と医療中国語に関する授業が開設され、一定の成果が見られる。

評価2

- ・地域日本語教育のメソッド開発による多文化共生への貢献

未着手

- ・英語教育メソッドの他大学、他機関への提供も視野に入れたビジネスモデル構築

未着手

- ・市民に開かれた新たな聴講生制度導入の検討

現代国際学部における現代国際特殊講義A、B、Cにおいて上限20名としつつ、科目聴講を許可している。また、大学院においても、科目等履修生の制度を実施しており、一定の成果が見られる。評価2

- ・学長プロデュースによる公開講座開設

WLACの事業の一環として年に一回行われている学長プロデュースイベント及び、DSJを中心にドストエフスキー関連の公開講座が定期的に行われており、十分な成果が見られる。評価3

IV. 中部地区唯一の外国語大学としての機能強化及びガバナンスの確立

(1) 学長室のリーダーシップ強化

- ・人事システムの柔軟化と合理化

学長室を中心に、新任人事、昇任人事等に関する仕組みがほぼ完成し、柔軟かつ合理的な適応がなされており、十分な成果が上がっている。とくに、外国人教員の昇任に関する基準を改め、教育貢献により重点を置く制度を先行的に構築した。評価3

- ・人事及びキャンパス整備に関する法人との対話推進

将来戦略会議において、個々の問題を議論し、人事面では、実務経験者の積極採用、キャンパス整備に関しては、個々の教室の機能性の強化、とりわけ511教室の完全リニューアル等を実現させている。また、バス発着に関する混乱などにも適切な措置を行っており、キャンパス整備に一定の成果が上がっている。評価2

(2) 時代の要請に応える組織基盤の強化

- ・教職員における女性比率の向上及び女性幹部職員、女性管理職教員の積極登用

本学の女性教員比率は、2015年度、39.9パーセント、2018年度、43.9%と高い率を誇っており、全国的レベルから見ても高い水準を誇っており、卓越した成果を上げている。評価4

- ・IR (Institutional Research) の事業推進

IRのさらなる強化をめざして、推進本部規定の改正を行い、IR推進本部においてIRデータの解析を行っている。具体的には、GPA評価法の見直し、アセスメントポリシーの構築、大学院再編に役立てており、十分な成果が生まれている。評価3

- ・コンプライアンスの徹底とセミナー等開催

未着手

- ・公正研究のための監視体制強化

公的研究費の運営・管理に関する規定、研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規定の整備を行い、また、公的研究費の使用に関するルール等の相談窓口・不正な使用等の通報窓口を設置するなど監視体制の強化をめざしている。また、毎年度、教授会構成員を対象として研究倫理教育を実施するなど卓越したレベルにある。評価4

- ・ヘルスケア・ヘルスプロモーション体制の充実、ストレス・マネジメントの推進

保健センターを中心に、ヘルスケア・ヘルスプロモーション体制を構築し、労働安全衛生法に基づくストレスチェック健診を実施、さらにはメール等によってストレス・マネジメント等に関する情報を積極的に発信しており、十分な成果を上げている。評価3

- ・事務職員の研修機会の充実

未着手

(3) 広報力の多角化、本学のプレゼンス向上

- ・在学生・保護者・卒業生に向けてのインターネットを通じた広報の実施

学科ホームページの大幅なリニューアル等を行うなど、一定の成果が見られる。評価 2

- ・インターネットの活用による教育・研究成果の発信力強化

名古屋外国語大学論集、Artes MUNDI をインターネット上で配信するなど、十分な成果を上げている。評価 3

- ・大学広報誌の刊行

中西学園刊行の Napre, 大学出版会が毎年新生を対象に発行する、Platza を始めと市、学生会新聞、あるいは、NAFStyle, さらにはマス研新聞等を刊行しており十分が成果が見られる。評価 3

- ・大学資料館の公開

未着手

(4) 財政基盤強化のための協力推進

- ・教育研究施設・設備の有効活用

未着手

- ・外部資金・受託事業等の獲得

平成 30 年、文部科学省による委託事業「グローバル化に対応した外国語教育推進事業」に採択され、十分な成果を上げているが（成果報告書参照）、大学全体としてはまだ出発点の段階にある。評価 2